

貴重な水を大切に

生駒市立上中学校 二年

西川 あかり

「うわぁ！なにコレ！めっちゃおいしい！」
今年の八月四日、初めて行く生駒どんどこ祭りの、あるブースでの感想だ。その日はとても暑かった。だから、会場までの道のりで、持ってきた水筒のお茶を飲みほしてしまった。人がたくさんいて、飲み物を買うのにも、かなり並ばなければならぬ。「早く水を飲みたい。」そう思った時に「利き水コーナー」とかいたテントを見つけた。近付いてみると、二つの水を飲み比べしている人がいた。「何をしているのだろう。」そう思い、面白そうだと思っただけで、私も参加してみた。二つのコップに入っている水の内、どちらかが生駒の水道水で、もう一方はミネラルウォーター。どちらに水道水が入っているか当てるといってもいい。最初に水を飲んだとき、何も言葉がでなかった。冷たくてさっぱりしていい。

た。びっくりするほど美味しかった。そして、どうやってこの水ができたのかが気になった。だから私は、水そのものと、生駒の水について調べることにした。
「水」は、生物が生まれるよりもずっと前、約46億年前にできた。地球ができてすぐ、地表はまだマグマで被われていた頃、地球の周りには水蒸気があった。マグマが冷えると、水蒸気が雨になり、地上へ降りそそいだ。この水が蒸発して、また雲になり、雨になって地上に降りそそぐ。これを何度も、何度も繰り返して海ができる。生物は、その海の中から生まれた。「母なる海」とも、呼ばれる海。水は、地球上のすべての生物の母なのだ。
生駒の水は、約六割が奈良県営水道から買った物で、約四割は地下水だ。地下水をとるための深井戸は、生駒市に二十三カ所ある。地下水には、森の栄養分がたくさん含まれ

ている。雨が森に降ると、木の根のすき間などから、スポンジのようにふわふわな土にろ過しながら吸いこまれる。こうしてできた地下水は、きれいで、ミネラルが豊富で、とても美味しい水になる。これは、昔から続く、自然の素晴らしい営みだと思う。

奈良県営水道の水源は、主に吉野川（紀ノ川）と、宇陀川である。そこから、室生ダムや津風呂ダム、大迫ダムや大滝ダムを編て、真弓浄水場できれいな水につくりかえ、私たちの町へ届いている。約百キロメートルもの道のりは、たくさんの人達の努力と知恵で、すぐに手の届く蛇口となったのだ。

生駒の水は、地下水の美味しいと感じる部分を生かしつつ、不純物を除去して、おいしい水の七つの要素を全て満たしている。たくさんの手間と時間がかかる分、とてもおいしい水になるのだ。

私がお祭りで最初に飲んだ水は、とてもおいしかったのでミネラルウォーターだと思っただが、生駒の水だった。生駒の水がミネラルウォーターよりも、ずっとおいしいなんて、知らなかった。しかも、あの時はのどが乾い

ていたから、水がよりおいしく感じたのだと思う。

人間の祖先をずっとずっと逆遡ると、海で生まれた生物にたどりつく。水と私達は、きつてもきれいな関係なのだ。私達にとって、水は命そのものなのである。

水を十分に得る事のできなかつた昔と違い私達は水をすぐに得られるし、いくらでも飲むことができる。しかし、そのせいで、水へのありがたみを忘れてしまっている人も多いのではないだろうか。おいしく安全な水がすぐ手に入るのは、たくさんの人達の知恵と工夫、そして大自然のお陰だ。そのことを忘れず、水がすぐ手に入る事に感謝しなければならぬと思う。私はこのことについて調べてから、手を洗うときやお皿を洗うとき、水の無駄使いをしないように、少しづつ水を出すようにしている。貴重な水に感謝しながら、大切に使っていこうと、私は思う。